



風

Aブロック
全作品と講評

www.columnland.jp

「風、冷たいね」

そんな、手をつなぐ口実。

かぜ

風なんか嫌いだ

テニスのボールが飛んでいってしまつから

風なんか嫌いだ

風が吹いたって女の子のスカートはめくれないから

風なんか嫌いだ

髪の毛が乱れるから

風なんか嫌いだ

せっかく咲いた桜の花が散ってしまうから

でも風がびゅうと吹いてもいいなあって思う瞬間がある

春という始まりの季節を告げる春一番が吹いたとき……

「ついに完成したぞー！」

「ハカセ、また変なものを発明したんですね」

「ああ、名付けて『ウィンドキャンセラー』じゃー！」

「へえ、どんな発明品なんですか？」

「その名の通り人工的に無風状態を作り出す機械で、実用化されれば傘が壊れることも花粉症で苦しむこともなくなるという優れ物じゃー！」

「……」

「どうしたんじゃ？ 急に黙ってしまいおって」

「……残念ですがハカセ、あなたには消えてもらわなくてはなりません」

「なん……じゃと……」

「風が吹かないと困るんですよ、われわれのために死んでください」

「われわれ？ 確かお主の所属団体は……」

「ええ、日本桶屋協会です」

『桶屋が儲からないならば風は吹いていない』

放課後、先輩と二人だけの部室。

邪魔するものは、何もない。

言うなら、今しかないだろう。

カーテンが風に靡いた。

ああ、このにおい。

初めて会った時から、なんとなく気になってた。

伝えよう、私の思いの丈を。

全部。

「先輩、ちゃんとお風呂入ってますか？」

風を感じる

風を感じるって生きてるってことかな

風が吹いてるってことは、世界が生きてるってことかな

ああ、こんなに気持ちいい風が吹いてるなら

生きてることがこんなに素晴らしいなら

やめとけばよ

グシヤ

「ふとした時に風が気持ちいいと感じられるほど、心に余裕があるという幸せ」

風が運んできたもの

風が吹いた

木々は揺れた

——へっくしょん——

僕はくしゃみをした

あきかぜ

九月の終わり。漸く残暑がひき、今度は急に冷え込み始めた。そんな時期のことだ。

幼馴染みが、風邪をひいたらしい。

母親からの命令で幼馴染み宅を訪れた僕は、その予想以上に弱った様子にひっそりと眉を顰めた。女の子らしい、ピンクの花柄のベッドの上で、彼女は横になっていた。熱がひどいらしく、肩で荒い息をしている。高校入学と同時に伸ばし始めた彼女自慢の黒髪が、今は少し邪魔そうだ……なんて言ったらきつと、彼女は怒るのだろうけれど。

「お粥、持ってきたけど食べれるか」

寝ているかもしれない。そう思っ少し抑えた声で尋ねれば、「食べる」とこれまた小さい返事がきた。起きようとする気配が伝わってきて、僕はそれを慌てて宥めた。温めてくるから、もうちょっと寝てな。言い置いて部屋を出る。

昔から、よく熱を出す奴だった。マラソン大会の前日とか、友達が転校した次の日とか。嫌なことがあると器用に倒れる。果たして今回は季節のせいしか心労のせいかな。レンジで粥を温めながら、僕はわざとらしく考える。本当は答えなんて、どうに知っているのだけれど。

お待たせ、と粥を差し出すと、彼女はありがと、と言って食べ始めた。意外と食欲はあるようだ。とりあえず、ほっとする。

お互いの両親が、仕事で忙しかったせいもある。僕と彼女は、気付けばいつも一緒にいた。

二人ともさして私の強くない性格だからか、僕らは喧嘩というものはほとんどしたことがなかった。ごはんちゃんと食べてる。クッキー焼いたの、少し食べない。さっきの授業中舟こいでただろ、ちゃんと寝てるの……。顔をあわせればそんな母親か父親のような心配ばかりで、端からみれば、それはもう仲睦まじく思えたかもしれない。クラスメイトからは、夫婦と揶揄されることもあった。そんな甘い関係でないことは、僕が一番よく知っている。

近すぎて、そんな風には思いもしない。

……はず、だったのだ。僕だって最初は。

「好きな人とかいないの」

一度だけ勇気を出して、そう聞いたことがある。彼女は少し驚いたように、一度ゆっくり瞬きをした。僕がそんなことを聞いてくるなんて意外。大方そんなことを思っているようだった。確かに僕らしくない話題だろう。失敗したかな、と少しだけ後悔した。

「いないよ」

と彼女は笑って言った。苦笑いに近かったように思う。

「唐ちゃんみたいな良い幼馴染みがいるから、あたし、理想が高くなっちゃったんだよ」

冗談めかして言った彼女に、じゃあその良い幼馴染みが、彼氏立候補なんてしたらどうする、と尋ねてみるのは簡単だったけれど。口を開きかけて、やめた。彼女の口調から他意は全く読み取れない。望みは薄いだろう。

彼女に恋をしてから、僕の空気を読むスキルは格段に上がったように思う。

——だから、彼女に好きな人ができたときも、僕は一番に気づけたのだ。

その人に、別に彼女がいたことも。

ごちそうさまと手を合わせてすぐに、僕は彼女をベッドに寝かせた。布団をかけてやるときに、彼女の口が何か言いたそうに動いたのが見えた。目線で促すと、彼女はぼそぼそと話しはじめる。

「……あたしね」

弱弱しい声。彼女に恋する男としては、ドキッとするべきなんだろうか。残念ながら幼馴染みである僕は、飽きるほど、とはいかないまでも、こういう声を聞く機会は今までにも何度かあった。かわりにおこった嫌な予感に、僕はそっと目を伏せた。そんな僕を一度も見ないまま、彼女は言葉が続ける。

「好きな人が、いたんだ」

知ってたよ、とは言えずに。

秋風が沈黙を攫っていくのを、僕はただ、他人事のように聞いていた。

ふう
●
●
●
○

「風」

コンテスト結果

[Aの部]

コラム番号	コラムタイトル	点数	順位	特別賞
		まじょコメント		
A01	無題（「風、冷たいね」	19 pt	1 位	3 sp
		ひょっとして体験談？ ふわっとハートウォーミングな今期の滑り出しです。 いまはまだ春。冬までには、こんなセリフが言えるように練習しておこう、そうしよう。 みんなにきゅんきゅんを届けて初回首位の栄冠を勝ち得ました。おめでとう!!! 特別賞：非東工大賞（リアリティがあるから） うらやま賞（爆ぜろ!!） きゅんきゅん賞（間の取り方がきゅんきゅうさせる）		
A02	かぜ	0 pt	8 位	0 sp
		嫌いだ嫌いだ嫌いだの連呼が、ラストで春一番の豪快さで吹き飛ばされて、えっそこ？ という意外な展開がおもしろかったです。 タイトルに凝ったりすると、もっと映えるでしょう、きっと。		
A03	桶屋が儲からないならば風は吹いていない	8 pt	6 位	0 sp
		桶屋がなぜだかハカセのお友だち。シュール展開で笑わせてくれます。対偶タイトルの付け方も秀逸でした。 みんな！ タイトルはだいじだ!! みんな！ タイトルはだいじだ!!（エコー） イチオシフレーズ：「なん……じゃと……」		
A04	無題（放課後、先輩と）	15 pt	3 位	1 sp
		カーテンさらさら、いい雰囲気、かと思いきや。まさかのお風呂展開で笑わせてくれます。 ラストフレーズのインパクトでブロンズメダル＆今週のイチオシフレーズ大賞をさらいました。おめでとう！ 特別賞：お風呂入りま賞（ミスリード感、「お風呂」にも風をかけている） イチオシフレーズ：「先輩、ちゃんとお風呂入りますか？」× 4		
A05	ふとした時に風が気持ちいいと感じられるほど、心に余裕があるという幸せ	15 pt	3 位	2 sp
		だから、しょっぱなから自由落下作品なんか選ぶなとTAさんに言ったのに・・・ まあ、「グシャ」の大インパクトにはかないません。降参。ブロンズメダル＆今週のイチオシフレーズ大賞です、おめでとう!! 特別賞：哀川賞（臨場感がある） ブラックすぎるで賞（男子だけの班にとってかなりツボった） イチオシフレーズ：「やめとけばよk」（死ぬ瞬間扱いから） 「グシャ」× 3		
		6 pt	7 位	0 sp

A06	風が運んできたもの	フォントの勝利ですね。 とぼけた味わいが、よく似合ってます。花粉症さん、おだいじに。 イチオシフレーズ：「——へっくしょん——」		
A07	あきかぜ	11 pt	5 位	4 sp
		だから、しょっぱなから二段組み作品なんて選ぶなと（以下略） まあ、心情描写の巧さは光ってましたけど。おさななじみ、それ以上には決してなれない。だから「あきかぜ」だったのでしょか。 しっかり読んでもらえて文章力への評価も入って良かったです。 特別賞：長いで賞（がんばったね）男が書いていたら引いていたで賞手がいたかったで賞？（文章力あって素敵だと思います。長文えらいです。）題と関係ないで賞（文章力は素晴らしいが、今回のテーマと少しずれている。） イチオシフレーズ：「庸ちゃん」		
A08	ふう・・・。	16 pt	2 位	5 sp
		うまいこと言った！ これ以上ないくらいに、きれいにはまった今週の裏表紙作品で満場哑然。 シルバーメダル&最多特別賞&今週のイチオシフレーズ大賞のトリプル受賞です。おめでとう!!! 特別賞：センスを感じるで賞（にてる）楽したで賞（ふう…。）短いで賞（最短）おつかれさまでした賞（深くは聞かないでください）みじかいで賞（圧倒的な短さ!!） イチオシフレーズ：「ふう・・・。」×4		

[Bの部]

コラム番号	コラムタイトル	点数	順位	特別賞
		まじょコメント		
B01	無題（風と遊ぶ花のように）	4 pt	8 位	2 sp
		こちらハートウォーミングな今期の滑り出しです。しあわせな風景。でも、読みようによっては、悲劇のシーンなのかも。深い。 特別賞：読み易いで賞 ほっこり賞（心が温まる）		
B02	無題（自由に成りたかった）	5 pt	7 位	0 sp
		若さ炸裂。ルールになんて縛られてやるもんか！前半の疾走感にぐるんぐると巻き込まれます。 で、あの世まで行ってみたのになんと物理法則は健在。みんなの好きそうなオチだなあ。 イチオシフレーズ：「物理法則という名のルールから。」		
B03	漢字で遊んでみたかった	8 pt	6 位	6 sp
		とっても痒そう！ まさに漢字遊びの極致、おみごとでした。いっぱい特別賞がもらえて、最多特別賞&今週のイチオシフレーズ大賞です。おめでとう!! 特別賞：鳥肌賞（初めてみたとき鳥肌がたったから）勉強になったで賞（虱の読み方が分かった）図をがんばったで賞（図がすごいから）虱って何と読むんで賞（班員の半数近くが虱を読めなかったから）今回の斬新		

		で賞（今回の作品のなかで最も際立って斬新だったから） まーいいで賞（まーよかったから） イチオシフレーズ：「風×6」×4
B04	風の悪戯	15 pt 2 位 2 sp 風が語っているという見せ方がユニークでした。 カツラなんていう妄想は捨てようぜ。メッセージも具体的で、言い分がしっかり伝わってきます。 オチのインパクトがしっかり効いて、シルバー・メダル & 今週のイチオシフレーズ大賞です、おめでとう!! 特別賞：がんばったで賞（おもしろかった） まあ、いいで賞（オチが面白い） イチオシフレーズ：「そう、" カツラ" として」×3 「妄想を具現化」
B05	抱風	14 pt 3 位 1 sp クサイセリフが、なぜかダジャレを仕込むとユーモラスに。 タイトルがしっかり内容と照応していてナイス。ブロンズ・メダルの支持をいただきました。おめでとう！ 特別賞：シンプルで賞（シンプル・イズ・ザ・ベスト） イチオシフレーズ：「そんな風（ふう/かぜ）にボクはなりたい」×2 「抱風」
B06	風船のなか	10 pt 5 位 1 sp いろんなものを、みんな風船に乗つけて飛ばしてしまおう。 空を見上げる＝明日を願う気持ちを歌詞のような整ったフレーズたちで届けていただきました。 特別賞：まともな詩で賞（詩としてととのっていたから）
B07	風止まぬ教室	20 pt 1 位 1 sp スイミーをいいお話と思う純真な小学生vsひねくれものの佐藤先生。対比がおもしろく仕上がっていて、これは佐藤先生の勝ちだなあ。 しっかり主張の筋を通して、それを小学生視点に落としして。あざやかなバランスの力作で堂々と初回の首位です。おめでとう!!! 特別賞：おいしいで賞（あと1歩でベスト3だったから） イチオシフレーズ：「ともみ先生」
B08	無題（風が吹いたら）	14 pt 3 位 2 sp 柳に風折れなし。ことわざを友だちトークにほぐした親しみやすさで、さらりと今週の詠み納めでした。あとあじの爽やかさでブロンズ・メダルです。おめでとう！ 特別賞：風を感じたで賞☆（テーマである「風」を感じ、すがすがしい気持ちになったから） みつを賞（風がやんだらすぐに立ち直れるんだなあみつを） イチオシフレーズ：「風とともにゆれる柳でいい」×2